

## A短期大学における成人看護学Bの授業評価に関する研究

—単元「心臓手術を受ける患者の看護」を展開して—

小野 晴子<sup>1)</sup>\*・住野 好久<sup>2)</sup>

1) 看護学科 2) 岡山大学大学院教育学研究科

(2009年2月4日受理)

本研究は、成人看護学Bの「心臓手術を受ける患者の看護」における学生の授業評価を実施することを通して、本授業の改善を要する点を明らかにし、今後の教授活動や教材の改善の手がかりを得ることを目的としている。A短期大学看護学科2年生を対象に「授業過程評価スケール—看護学講義用—」<sup>1)</sup>を用いて調査を実施した。

その結果、授業全体の評価として平均点は3.6点であった。「具体と抽象の連関と教員意見の織り込みの程度」に関する項目が高く評価され、「具体例・事例・経験談などで抽象的な内容を具体的に説明した授業」と評価された。さらに、「看護師や看護を重要なものと価値づけていることが伝わった」という項目も高かった。

平均点の低い項目は「学生への対応」で、3.2点と平均点より低かった。特に「教員は学生への一方的な講義ではなく学生も参加できた」や「教員は学生の発言を取上げて講義を進めていた」が低く評価された。

以上のことから、具体例・事例・経験談などで具体的に説明しながら、学生への一方的な講義ではなく学生の発言を取上げ、学生も参加できるような授業を展開する必要性が示唆された。

(キーワード) 成人看護学B, 授業評価, 授業過程評価スケール, 心臓手術前後の看護

### はじめに

近年、循環器疾患を取り巻く医療は目ざましく進歩している。個々の患者のQOL向上を目ざした医療体制の整備が推し進められてきた。看護師は医療チームの一員として患者のQOLの向上に向けて、注意深い観察とアセスメントにもとづく看護をすることが求められる。本授業では、とりわけ慎重な看護が求められる心臓手術前後の看護について、既習の医学的知識を踏まえた看護の実際を理解できるような授業展開が求められる。では、本年度の「心臓手術前後の看護」の授業は、こうした課題に応えることができたのか。

そこで、講義終了後に授業評価を実施し、本授業の成果及び改善を要する点を明らかにする。そして、その結果を考察することを通して、授業の質の向上を図るための教授活動や教材の改善など授業計画、授業方法を見直し、講義の質を向上させる。

### I. 用語の定義

#### 1. 授業過程評価スケール—看護学講義用

「授業過程評価スケール—看護学講義用」とは、舟島ら<sup>2)</sup>が開発した教育活動の質を測定する尺度である。特

徴は、「看護基礎教育課程に在籍する学生の講義過程に対する評価基準を網羅し、学生の視点を反映している」点にある。

#### 2. 成人看護学B

「成人看護学B」とは、看護学科2年次後期に開講している「手術療法」「開胸術を受ける患者の看護」「心臓手術を受ける患者の看護」「開頭術を受ける患者の看護」「腎・泌尿器の手術を受ける患者の看護」の5つの単元から構成し、1単位(30時間)のことを示す。

授業目的は、周手術期の患者の身体的・心理・社会的特徴を明確にし、看護上の問題に基づいて看護の目的と機能を理解し、基本的な看護の実際を学ぶことにある。

### II. 研究目的

成人看護学Bの単元「心臓手術を受ける患者の看護」の授業実践を学生による授業評価を実施し、本授業の改善を要する点を明らかにし、今後の教授活動や教材の改善の手がかりを得る。

### III. 研究方法

1. 研究方法：留め置き法による自記式質問紙調査。

\*連絡先：小野晴子 看護学科 新見公立短期大学 718-8585 新見市西方1263-2

2. 調査対象：A短期大学看護学科2年生63名。回答は42名（有効回答率66.7%）。
3. 調査期間：2008年12月22日～24日
4. 調査内容：成人看護学Bの「心臓手術を受ける患者の看護」に関する授業を舟島ら<sup>3)</sup>の「授業過程評価スケール-看護学講義用-」を用いて、「講義過程のダイナミクスと講義の意義・価値の伝達」「学生への対応」「教材の活用・工夫方法」「具体と抽象の連関と教員意見の折込の程度」「内容の質と独自性」「内容の難易度と時間的ゆとり」「教員の話術」の7領域38項目に分類して測定した。

さらに、学生の授業への「期待度」「理解度」「活用度」について調査した。

5. 分析方法：統計ソフトSPSS 16. J for Windowsによる統計処理を行なった。また、調査項目を「非常に当てはまる」5点、「かなり当てはまる」4点、「大体当てはまる」3点、「あまり当てはまらない」2点、「全く当てはまらない」1点の5段階間隔尺度を用いて評価した。

学生の授業への「期待度」「理解度」「活用度」については、「そのとおり」「まあまあそのとおり」「あまりそうでもない」「そうではない」の4段階等間隔尺度で評価した。

6. 倫理的配慮：A短期大学看護学科2年生に研究の趣旨と内容を口頭で説明した。成績とは無関係であること、研究目的以外には使用しないこと、研究協力は自由意志であること、個人が特定できないよう匿名性を保持した統計処理をすることを説明した。回収は回答箱を用意し、自由に回答ができるようにした。また、舟島らの「授業過程評価スケール-看護学講義用-」を用いることを事前に承諾を得た。

7. 「心臓手術を受ける患者の看護」授業計画

「心臓手術を受ける患者の看護」を4時間（2コマ）で授業を以下のように展開した。

単元目標を、①心臓手術患者の看護に必要とされる知識・技術を身につける。②手術にそなえて循環動態の評価など全身管理の必要性が理解できる。③患者・家族の手術前・術後の心理的苦痛の軽減ができる。これらの看護の実践について学ぶとした。これらの目標を達成するために授業計画を行った。（表1）

表1 授業計画 「心臓手術を受ける患者の看護」

回	授業内容	授業方法	備考
第1回	心臓手術を受ける患者の術前の看護	講義	
第2回	心臓手術を受ける患者の術直後の看護	講義	VTR

特に教授しておきたいこととして、術後に侵襲を受ける心臓血管外科手術の周手術期管理・看護に関する最新の知識と技術を駆使し、身体的・精神的合併症や障害の

予防に努めることができ、迅速かつ適切な判断に必要な観察とアセスメント能力、観察と継続的な看護を重要視した。さらに、テキストのみでなく、筆者自ら<sup>4)</sup>の著書の活用や他の参考文献、VTRなどを使って授業を展開した。

IV. 結果

成人看護学Bの単元「心臓手術を受ける患者の看護」4時間の授業終了後に実施した授業評価の結果は以下のようであった。

1. 授業への期待度

単元「心臓手術を受ける患者の看護」の授業への期待度をみると、授業前は61.9%が期待しており、授業後には81%と期待度が高くなっていった。また理解度をみると、76.1%の学生が理解できたと答えていた。さらに、学んだことを実習や臨床で実践に活かしたいかでは、80.9%の学生がそうしたいと答えた。将来、心臓手術を受ける患者の看護を実践したいと思うかでは、35.7%がそう思うと答え、64.3%の学生はそうは思わないと答えた。

2. 講義の領域別別得点

7領域の平均点は、3.6点であった。7領域の中で最も平均得点の高かった項目は、「IV. 具体と抽象の連関と教員意見の織り込みの程度」の3.8点であった。次いで、「III. 教材の活用」が3.7点、次いで「I. 看護過程のダイナミクスと講義の意義・価値の伝達」と「V. 内容の質と独自性」の2項目が3.6点であった。続いて「VII. 教員の話術」が3.5点、「II. 学生への対応」と「VI. 内容の難易度と時間的ゆとり」が3.4点であった。（図1）

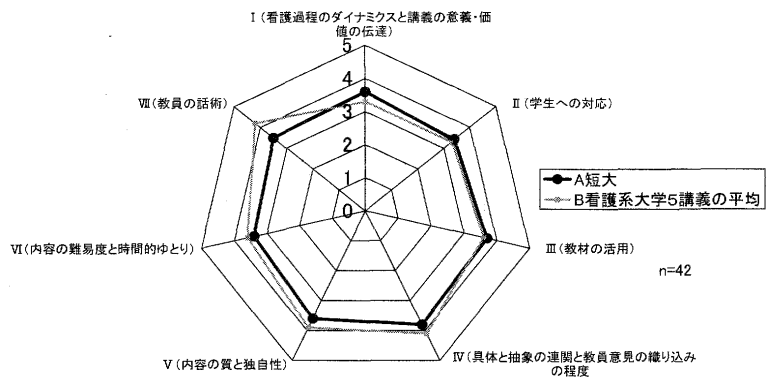


図1 下位尺度別平均得点

1) 「IV. 具体と抽象の連関と教員意見の織り込みの程度」の内訳

領域IVの5項目の内訳をみると、「具体例・事例・経験談などで抽象的な内容が具体的にわかった」が4.0点で最も高かった。次いで「難しいテーマや内容については、

実例を示したり、具体的な説明があった」と「一つの考え方として教員自身の意見を示していた」の2項目が3.8点、「教師自身の意見や考えを適度に示していた」が3.7点、「専門用語やなじみのない用語に対し、わかりやすい説明があった」が3.5点となっていた。(図2)

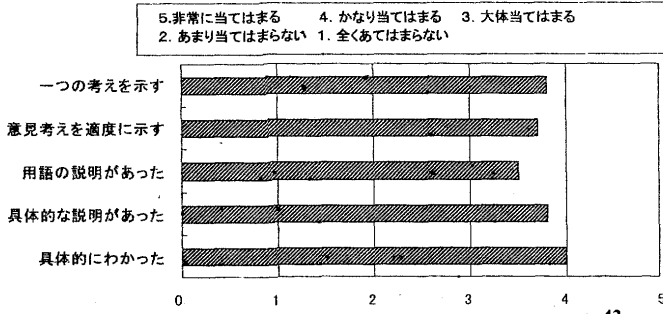


図2 下位尺度IV(具体と抽象の関連と教員意見の織り込みの程度) n=42

2) 「Ⅲ. 教材の活用」の内訳

領域Ⅲの7項目の内訳をみると、最も高かったのは、「資料・スライドなどの教材の量は適切であった」「教材を学生に示している時間は適切であった」「いくつかの教材を適切に組み合わせていた」の3項目が3.8点であった。次に「教材を見せたり、配ったりするだけでなく、説明を加えていた」「黒板やOHP、資料などの文字は読みやすかった」「わかりやすく工夫した教材を用いていた」「資料・スライドなどの出典や参考文献を示していた」の4項目が3.7点であった。(図3)

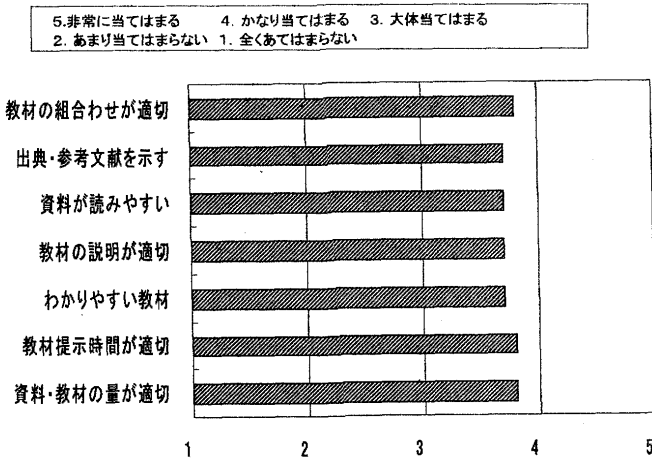


図3 下位尺度Ⅲ(教材の活用・工夫方法) n=42

3) 「Ⅰ. 看護過程のダイナミクスと講義の意義・価値の伝達」, 教材の活用」の内訳

領域Ⅰの8項目の内訳をみると、最も高かったのは「教員は看護師や看護を重要なものと価値づけていることが伝わった」の3.9点、次が「事例や経験談は、多すぎる

ことも少なすぎることもなかった」と「今後役立つ内容の講義であった」の2項目が3.8点であった。続いて「抽象的な話に終始することのない講義であった」が3.6点、「講義内容は無駄や重複がなく、順序立てて整理されていた」が3.5点であった。「講義のテーマ・目的がわかりやすい展開であった」が3.4点で、「講義の要点がわかりやすい展開であった」と「講義の結論が明確な展開であった」の2項目が3.3点であった。(図4)

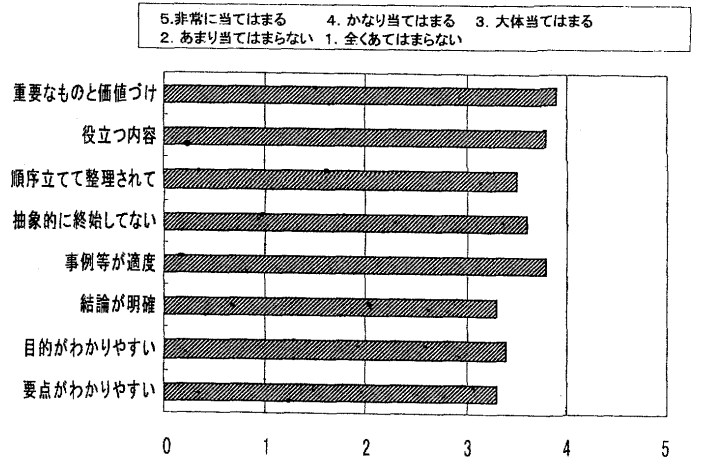


図4 下位尺度Ⅰ(講義過程のダイナミクスと講義の意義・価値の伝達) n=42

4) 「Ⅴ. 内容の質と独自性」の内訳

領域Ⅴの4項目で高かったのは、「講義の内容は表面的でなく心に響くものであった」の3.7点であった。次いで「その教員にしかできない講義であった」が3.6点、「新鮮さを感じる講義であった」と「豊富な内容を含んだ講義であった」の2項目が3.5点であった。(図5)

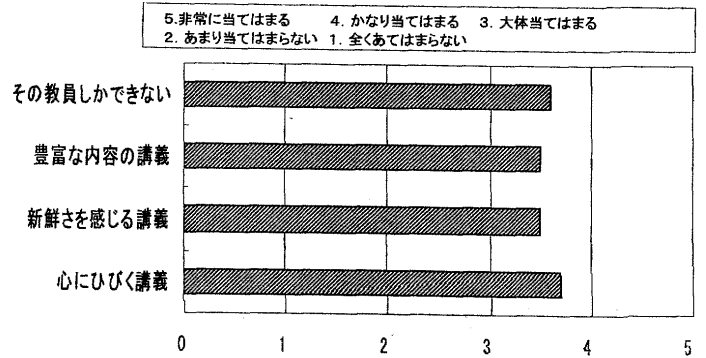


図5 下位尺度Ⅴ(内容の質と独自性) n=42

5) 「Ⅶ. 教員の話術」の内訳

領域Ⅶの3項目で高かったのは、「教員の話す速度は速すぎることも遅すぎることもなかった」が3.6点で、「教員の声は明瞭で聞き取りやすかった」と「教員の話し方は単調ではなかった」の2項目が3.4点であった。(図6)

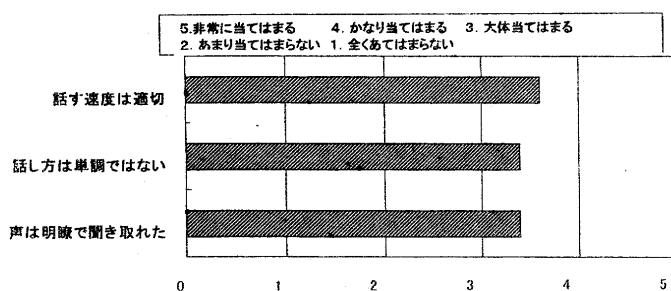


図6 下位尺度VII(教員の話術) n=42

6) 「II. 学生への対応」の内訳

領域IIの6項目で高かったのは、「教員は学生を尊重した態度で講義を展開していた」が3.7点、次いで、「教員は学生の反応や理解を確認していた」が3.5点、次いで「教員は学生への一方的な講義ではなく学生も参加できた」「学生への質問は量は多すぎることなく少なすぎることなかった」「学生への質問のタイミングや方法は適切であった」の3項目が3.3点と同率であった。次いで「教員は学生の発言を取上げて講義を進めていた」が3.2点と低く、38項目中最も低かった。(図7)

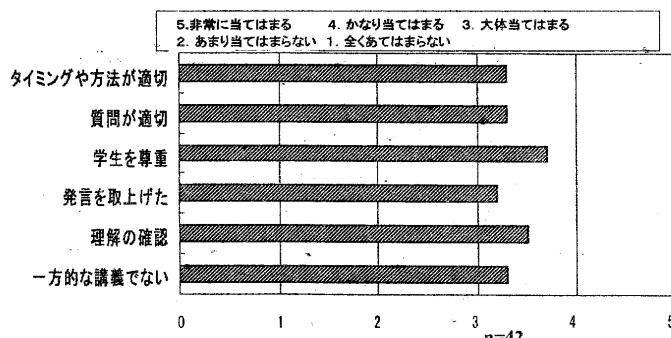


図7 下位尺度II(学生への対応) n=42

7) 「VI. 内容の難易度と時間的ゆとり」の内訳

領域VIでは、「講義時間をむやみに延長したり、短縮することはなかった」が3.7点、次いで「ノートをとるための時間は丁度よかった」が3.5点、難しすぎることも優しすぎることもない授業であった」「専門用語やなじみの

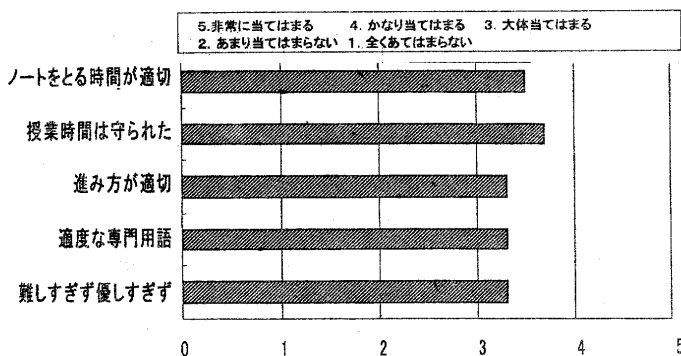


図8 下位尺度VI(内容の難易度と時間的ゆとり) n=42

ない用語は、多すぎること少なすぎることなかった」「講義の進み方は速すぎること遅すぎることなかった」の3項目が3.3点となっていた。(図8)

3. 総得点から見た高・中・低得点別項目の内訳

「授業過程評価スケール」は各領域の総得点によって、「高得点領域」「中得点領域」「低得点領域」の三階層に分けられる。

1) 「高得点領域」の項目

今回の講義の総得点は150点(平均3.6点)、全領域の38項目の中で総得点が164点以上の「高得点領域」は2項目あった。内容を見ると、領域IIIの「教材を見せたり、配ったりするだけでなく、説明を加えていた」が166点で最も高かった。次が領域IVの「具体例・事例・経験談などで抽象的な内容が具体的にわかった」で165点であった。この2項目が「高得点領域」であった。

2) 「中得点領域」の項目

次いで、総得点が122点から163点以下を見ると、後の36項目全てが「中得点領域」の範囲となっている。「中得点領域」は総得点161点から131点までの広範囲であり、ばらつきが大きい。

3) 「低得点領域」の項目

38項目中の総得点が121点以下の項目はなかった。

V. 考察

1. 授業への期待度・理解度・活用度

単元「心臓手術を受ける患者の看護」の授業への期待度をみると、授業前は半数以上の学生が期待しており、授業後には8割と期待度が高くなっていった。これは、本授業の効果と考えることができる。

また理解度をみると、7割以上の学生が「理解できた」と答えている。心臓手術を受ける患者の看護は急性期であり、手術には大きな身体侵襲を伴う。したがって、様々な術前の準備と心理的な側面への配慮が必要である。実践現場の看護師にも苦手とする傾向がある。このような「心臓手術を受ける患者の看護」に関して7割以上の学生が「理解できた」と回答していることは注目に値する。ただし、これは自己評価であり、客観的な学習到達度ではないが、全体としてわかりやすく学生の理解を促進した授業であったと評価することができる。

さらに活用度に関しては、「学んだことを実習や臨床で実践に活かしたいか」では、9割の学生がそうしたいと答えた。しかし、「将来心臓手術を受ける患者の看護を実践したいと思うか」では、4割に満たなかった。実践となると難しいと思ったり、厳しいイメージがあったり、自信がないといった学生の思いが推測できる。

今後の改善としては、臨床実習において経験を積むことで自信をもって取り組めるようにしたり、及び本授業

において臨床の実践家から経験談などを聞く機会を作り、看護師の専門性を存分に発揮できる看護領域であることを理解することでやりがいを感じてもらったりすることが考えられる。

学生たちは本授業を通じて、「教員は看護師や看護を重要なものと価値づけていることが伝わった」(3.9点)、「講義の内容は表面的でなく心に響くものであった」「豊富な内容を含んだ講義であった」(3.8点)という学びを経験している。この豊かな学びを臨床で自信を持って看護実践できる力へと発展させていくことが課題である。

## 2. 講義の授業評価

成人看護学Bの心臓手術を受ける患者の看護の授業評価を「授業評価スケールー看護学講義用ー」を用いて実施した。

7領域の総得点の平均は150点、下位項目の平均点は3.6点であった。この評価は「中得点領域」に位置し、学生の評価が平均的な講義であったと考える。舟島ら<sup>5)</sup>の調査した看護系大学5講義の結果は平均点が3.7点であり、0.1点低かった。これらのことから、講義内容・対象学生などの条件が違っても、本授業の評価はほぼ平均的な評価であったといえる。

では、この授業の成果と改善の課題は何か。

### 1) 抽象・一般と具体とを結びつけて理解できる授業構成

心臓手術を受ける患者に対する看護実践力を養成するためには、解剖生理・病態学・診療援助論・臨床看護論等、既習の知識を活用し、さらに医療の分野に踏み込んだ教育が求められる。したがって、本授業では既習の抽象的な知識・一般的な技術を具体的な患者の実態とを結びつけて理解させる授業構成が求められる。

その点で、「IV. 具体と抽象の連関と教員意見の織り込みの程度」が3.8点と平均点以上であったことが重要である。この下位項目は、抽象度の高い内容や専門用語をわかりやすく説明しているか、また説明する際に教員個人の見解をどのように織り込んでいるかなど、教員の説明技術を測定する項目である。下位項目の内訳をみても、「具体例・事例・経験談などで抽象的な内容が具体的にわかった」と「一つの考え方として教員自身の意見を示していた」「教師自身の意見や考えを適度に示していた」など、実践例を用いた授業が学生にとって効果的であると考える。さらに、「難しいテーマや内容については、実例を示したり、具体的な説明があった」やの2項目も3.8点と平均点より高かった。このことは、複雑で難易度の高い「心臓手術を受ける患者の看護」の学習において、実践例の教材としての活用と、教員自身の経験を踏まえた説明が学生の理解を深めていることを示している。

しかし、「VI. 内容の難易度と時間的ゆとり」では、

「専門用語やなじみのない用語は、多すぎることも少なすぎることもなかった」や「ノートをとるための時間は丁度よかった」などが平均点より若干低く、講義の進み具合や難易度も平均点を下回った。心臓手術をうける患者の術前術後の身体的・心理的看護は患者にとっても看護師にとっても理解しがたいところであり、ましてや2コマ(4時間)の授業で学生たちが満足できる程度にわかりやすく説明していくことはとても難しいことである。十分な授業時間がなく、難易度の高い内容を短時間で説明するには、学生に必要な授業内容などの精選と、授業方法の工夫が必須となる。そのためには教授者自らが「心臓手術をうける患者の術前術後の看護」等の臨床実践能力を養う必要がある。常に臨床と連携をとり、臨床との情報交換をしながら新しい治療法や医療器具のしくみなどに熟知しておくことが望まれる。

### 2) 具体的事例を用いた教材の工夫

具体と抽象とを結び付ける学習を可能としたのは、実践例を教材として活用したからである。「Ⅲ. 教材の活用」においては、「資料・スライドなどの教材の量は適切であった」「教材を学生に示している時間は適切であった」が3.8点で、他の5項目「教材を見せたり、配ったりするだけでなく、説明を加えていた」「いくつかの教材を適切に組み合わせていた」「黒板やOHP、資料などの文字は読みやすかった」「わかりやすく工夫した教材を用いていた」「資料・スライドなどの出典や参考文献を示していた」も平均点以上であった。これは、教材の量や種類、資料の提示時間など、教材の工夫が高く評価されたことを示している。

また、「I. 看護過程のダイナミクスと講義の意義・価値の伝達」において「事例や経験談は、多すぎることも少なすぎることもなかった」「抽象的な話に終始することのない講義であった」も平均点を上回った。難しい内容を分かりやすく説明し、理解を促進しようとする教授者の意図は受け止められていたようである。

### 3) 学生の学びを組織する教授行為の工夫

授業における教員の教授行為に関しては、「Ⅶ. 教員の話術」の中で「教員の話す速度は速すぎることも遅すぎることもなかった」が平均的な評価であったが、教員の声や話し方については平均点を下回った。このことから、教員の声の大きさや話し方など、講義における話術を身につけることを示唆している。どんなにいい授業案立てでも伝わらなければ意味がなからう。

「Ⅱ. 学生への対応」では、「教員は学生を尊重した態度で講義を展開していた」が3.7点で平均点を上回ったが、「学生への質問は量は多すぎることもなく少なすぎることもなかった」と「学生への質問のタイミングや方法は適切であった」など他の4項目も平均点を下回った。特に「教員は学生の発言を取上げて講義を進めていた」が3.2点

と最も低い評価であった。この項目は、講義中の学生への質問や発問を通して学生の主体的な学びを引き出し、双方向的なコミュニケーション活動として授業を展開する意識が不足していたからである。舟島ら<sup>9)</sup>の研究においてもこうした項目は平均得点より低く、学生が発言できる機会を増やし、一方的な展開にならないようにする必要があると指摘している。今回の評価を課題として授業案の修正を行い、学生の既習学習を発言として引き出し、それを応用・発展させながら学生たちの主体的な学びを豊かにする授業を展開したいと考える。

## VI. 結論

以上の結果から、以下のような結論を得た。

1. 授業評価の平均は、3.6点であった。
2. 平均得点の高かった領域は、「具体と抽象の連関と教員意見の織り込みの程度」の3.9点で、低かった領域は「学生への対応」3.2点であった。
3. 授業評価の高かった下位項目は、「具体例・事例・経験談などで抽象的な内容を具体的に説明」した授業で、低かった下位項目は、「学生への一方的な講義ではなく学生の発言を取上げ、学生も参加できる」であった。
4. 授業への期待度・理解度は高いが、「将来心臓手術を受ける患者の看護を実践したいと思うか」では4割に満たなかった。臨床での自信を形成する必要がある。
- 4) 具体的な教材を活用し、抽象・一般と具体とを結びつけて理解できる授業構成であったが、学生の学びを組織する教授行為の工夫がさらに必要であった。

## 謝辞

本研究の調査に協力をいただいた平成19年度入学の看護学科学生の方々に心から感謝いたします。

## 引用・参考文献

- 1) 舟島なをみ監修, 舟島なをみ, 山澄直美, 松田安弘 他著: 看護実践・教育のための測定用具ファイル, 医学書院, 75-84, 2008
- 2) 前掲書1), 76
- 3) 前掲書1), 81
- 4) 宮崎和子監修, 富田幾枝編, 小野晴子: 術後患者の観察, 中央法規出版, 128-181, 2001
- 5) 前掲書1), 83
- 6) 前掲書1), 81
- 7) 鈴木美和, 亀岡智美, 舟島なをみ: 講義における教員と学生の授業過程評価の差異, 看護展望, 28(5), 43-48, 2003
- 8) 中谷啓子, 舟島なをみ, 杉森みど里: 授業過程を評価する学生のしてんに関する研究-講義, 看護教育学研究, 7(1), 16-30, 1998
- 9) 舟島なをみ, 杉森みど里, 定廣和歌子: 学生が評価主体となる看護系大学授業過程評価スケール(講義用)の開発, 千葉大学看護学部紀要21, 1-7, 1999

## **A study of the assessment of the "Nursing care for patients undergoing cardiac surgery" class in the "Adult Nursing B" course**

Haruko ONO, Yoshihisa SUMINO

The department of Nursing, Niimi College, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585 Japan

### Summary

This study was conducted to identify ways to make improvements, based on an assessment by students, to the "Nursing care for patients undergoing cardiac surgery" class in the "Adult Nursing B" course as well as its teaching methods and materials. We conducted a survey of second-year nursing students of Junior College A, using a "scale to assess the teaching process in nursing lectures".

Regarding the assessment of the class, the average score was 3.6 points. A high score was achieved for assessment items: "Explanation of the relationship between concrete and abstract matters and an appropriate level of opinions from instructors" and "Nurses and nursing care were recognized as important in the class". The most common comment from students was "Specific examples and experiences were used to explain abstract matters".

The score for "response to students" was 3.2 points, slightly lower than the average. Their comments included: "Lessons were not interactive, and we just listened to the instructor" and "We had no opportunity to express our opinions in the class".

Therefore, it is important to explain things using specific examples and experiences in class, and provide more interactive lessons to encourage students to express their opinions.

Keywords: "Adult Nursing B" course, Assessment of class, Scale to assess teaching process, Pre- and post-cardiac surgical nursing care